Ⅰ　学校の概要

学習習慣形成モデル校事業　　**高松市立庵治中学校**

◆児童数及び教員数

〇児童数

第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年	特別支援	全　校
１学級 ３３名	１学級 ２７名	１学級 ２９名	学級 名	学級 名	学級 名	２学級 ５名	５学級 ８９名

〇教員数　　１３名

◆学校の特色

校訓「自啓・誠実・協同」のもと、生徒会活動が学校生活の核となっており、入学式や卒業式、全校朝会などの司会をはじめ、体育祭や文化祭、合唱コンクールなど、校内の主な行事は生徒会本部役員が中心となって企画・運営している。近年は、特に「日本一の挨拶ができる学校」「ありがとうの言葉が響き合う学校」「当たり前のことが当たり前にできる学校」の三つの学校をめざした行動を、挨拶・ありがとう・当たり前の各アルファベットの頭文字を取って３Ａと呼び、生徒会が推進役となり新たな伝統として根づきつつある。学習面では、生徒一人一人が個性を豊かに発揮でき、学習への意欲が一層高まるよう、数学科で少人数指導に取り組んでいる。また、全教員が授業公開に取り組み、教科の枠を越えて互いの授業を評価するなど、学校全体、全教科をあげて授業改善に取り組んでいる。

Ⅱ　研究主題等

研究主題

「主体的に学び続ける学習習慣を身に付けた生徒の育成」
～学校・家庭・地域の連携のもと、学習への関心・意欲・態度を高める工夫～

◆研究主題設定の理由

平成 28 年度からメディアの適切な利用と、テスト期間中の家庭学習の確保を目的として、ノーメディア・デー、ノーメディア・ウィークを実施している。以下は平成 29 年度に実施した結果である。

全校	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
ノーメディア・デー 達成者率%（前年度）	48.9 （54.2）	76.6 （71.9）	73.9 （74.0）	76.1 （71.6）	71.3 （69.8）
ノーメディア・ウィーク 達成者率　（前年度）			43.5 （44.8）	44.8 （41.1）	43.6 （47.9）

第１回は 50%を下回る残念な結果だったが、それ以後はいずれも守れた人の割合が 70%を越えており、昨年度と比較しても向上した。特に１年生はすべての回で 70%を越え、そのうち３回は 80%を越える高い達成率だった。２年生も第３回以降はいずれもほぼ 80%の達成率だった。第３回以降に取り組んだノーメディア・ウィークは、毎回の達成率が 45%弱と大きくは変わらない結果で、昨年度とほぼ同傾向だった。しかしながら、第５回の感想には「ノーメディアはもう慣れたので、何も苦になることなく達成できた。」と習慣化できるようになっている生徒や、「入試に向けて勉強し始めてからテレビを見ないことが日常にな

り、今までのテスト期間の中で一番しっかり勉強できていたと思う。」とノーメディアの取組を自信にして受験を乗り越えようとしている生徒や、「自分にとってよい学習ができ、その環境を創ることに賛成してくれた家族に感謝したい。」と家族の支援に感謝する生徒や、「３年生最後なので自分に甘えずにがんばった。高校生になっても続けたい。」と卒業後も取組を継続しようと意欲を示す生徒も見られるなど、次年度に向けて明るい兆しともとれる感想も多々あった。以上のように、生徒は、概ね前向きに取り組み、成果も出ているように思う。しかしながら、以下に示す平成29年度の生徒と保護者の学校評価アンケートからは、中間評価・最終評価ともに「家庭で計画的に勉強している」の評価が低く、香川県学習状況調査の結果からも、同様の傾向が見られた。このことから、上記研究主題を設定した。

生徒による自己評価（７月および１２月実施）

項目	数値目標	中間評価	最終評価
自分は、家庭で計画的に勉強している	70%以上	50.0%	60.4%

保護者による評価（７月および１２月実施）

項目	数値目標	中間評価	最終評価
子どもは、家庭で計画的に勉強している	70%以上	50.5%	52.2%

◆研究内容及び方法

研究内容については、本校生徒の実態把握をもとに、学級・学校で取り組めること、家庭と連携し取り組めること、地域の協力を得て取り組めることについて以下のような方法を設定し、主体的に学び続ける学習の習慣化を図り、学力向上につなげる。

（1）　学級・学校で取り組めること

・教材研究・教材開発･･･生徒の興味・関心を高め、生徒が意欲的に取り組む教材を研究・開発する。・小テストの導入･･･授業冒頭に小テストを継続して設けることで、１時間の授業に向かう気持ちのスイッチを入れる習慣や、小テストのための家庭学習の習慣を身に付けさせる。

・ベーシック TAKAMATSU の活用･･･小ホワイトボードを使って、日常的に基礎基本を確認したり、生徒相互が教え合う機会を創ったりして、向学心の育成を図る。

・自主勉強ノートの取組･･･授業と家庭学習をつなぎ、学力を定着・向上させるため、自主勉強ノートを毎日１ページ以上課題とし、工夫あるノートはみんなに紹介したり、シールや花丸で称賛したりする。

・新聞の活用･･･各学級に新聞を自由に閲覧できるように常設し、その記事をもとに当番制で一分間スピーチを実施することで、生徒が主体的に学ぼうとする姿勢や向学心、読む力・書く力・聴く力を育てる。

・個のよさを認める場の設定･･･毎日の帰りの会で「今日のキラリさん」と題して、ともだちのいいところを発表し合う機会を設け、主体的に学び続けるために欠かせない学級集団の支持的風土を醸成する。

・全教職員での実態把握･･･定期的に実施する教育相談アンケート・hyper-QU「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート」の分析結果をもとに全教職員が共通理解を図り、要観察生徒への支援を行う等、学習集団の土台となるなかまづくりを推進する。

（2）　家庭と連携し取り組めること

・家庭学習の手引きを配布し、保護者からの支援の手立てとする。

・ノーメディア・デー及びノーメディア・ウィークの実施･･･テスト期間中の家庭学習の充実を図る。

・効果的な保護者啓発の工夫･･･学校・学年だより等を通じて、家庭学習の取組への支援を依頼する。

（3）　地域の協力を得て取り組めること

・地域との連携･･･放課後生徒クラブ（仮称）を設け、学校支援ボランティアに部活動休養日等に、学び支援を依頼することで、つまずきを早期に解決し、家庭学習習慣化の一助とする。

Ⅲ　研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1　（児童質問紙）　家で学校の宿題をしていますか。

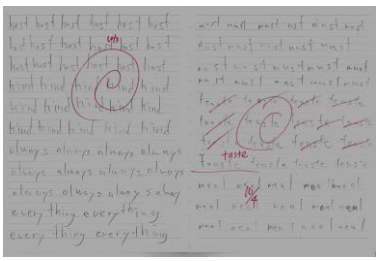
指標「①している」の割合

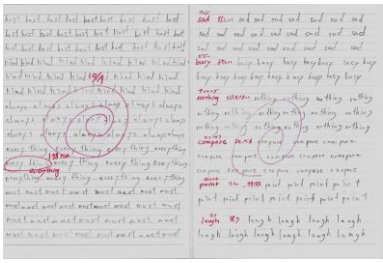
5月調査	→	目標値	→	11月調査
66.3%		75.0%		77.0%

指標の達成に向けた実践

(1) 授業と家庭学習をつなぐ自主勉強ノートの工夫

家庭での学習習慣を身に付け、学力を向上させるために、自主勉強ノートを毎日１ページ以上課題としました。ある生徒の変容として、初めは乱雑に英単語を練習しているだけでしたが、次第に整えて書くようになりました。また、新聞記事を切り抜いて、難しい言葉の意味を調べ、感想を書く生徒もいます。振り返りをして復習に努めたり、授業で習ったことに興味をもち、発展させて学習を進めたりと個々に工夫が見られるようになりました。また、工夫あるノートは、みんなに紹介したり、シールや花丸で称賛したりしています。





(2)　家庭と連携したﾉｰﾒﾃﾞｨｱ･ﾃﾞｰ、ﾉｰﾒﾃﾞｨｱ･ｳｨｰｸの取組

家庭と連携して学習習慣を身に付けてもらえるように、ﾉｰﾒﾃﾞｨｱ･ﾃﾞｰ、ﾉｰﾒﾃﾞｨｱ･ｳｨｰｸの取組を２年前から実施しています。本年度から、高松市教育委員会の調査用紙を活用し、選択制にして各家庭にあったやり方でチャレンジしてもらい、保護者からもコメントをいただくようにしました。

第１回結果（5/16 実施）　**達成度90%以上の生徒は、65.2%**

コース　達成度	100%	90%以上100%未満	70%以上90%未満	50%以上70%未満	50%未満	計
A 完全ノーメディア	8	5	3	0	0	16 (18.0%)
B ノーネット・ゲーム	14	9	4	1	1	29 (32.6%)
C 夜ふかし禁止	4	7	6	2	2	21 (23.6%)
D タイムリミット	4	6	6	1	1	18 (20.2%)
E オリジナル	0	1	3	0	1	5 (5.6%)
計	30 (33.7%)	28 (31.5%)	22 (24.7%)	4 (4.5%)	5 (5.6%)	89

保護者の感想

「今回は私も一緒にノーメディアをしてみて、学習しているときは読書をしました。こういう時間を過ごすのもいいものだなと思いました。」「子どもに限らず大人も自己管理能力を問われているこの頃ですが、家族で協力しながら、依存症にならないようにしていきたいです。」

これら取組の結果、「家で学校の宿題をしていますか」の問いに対して、「している」の割合が、目標値を上回り、プラス 10.7 ポイントと向上しました。

２　（児童質問紙）　分からないところは先生や友達に質問して解決していますか。

指標「①している＋②どちらかといえばしている」の合計

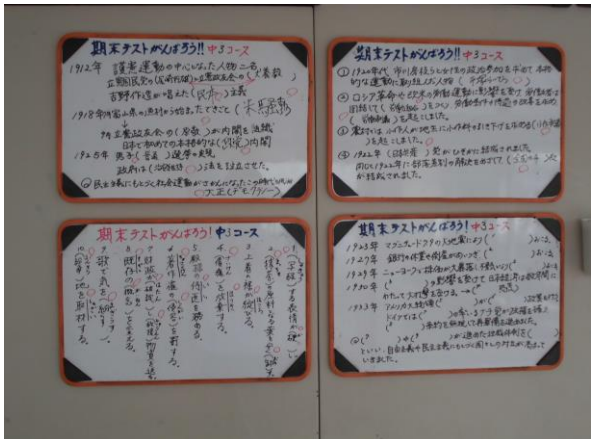
５月調査	→	目標値	→	11 月調査
61.8%		75.0%		77.0%

指標の達成に向けた実践

(1) 授業以外の学びの場を通しての向学心の育成

① ホワイトボードのＱ＆Ａ

授業以外でも学びの場を設けることで、生徒一人一人の向学心を高めるとともに、生徒相互が教え合う機会を創ることで、授業中でもお互いが分け隔てなく分からないところを尋ね合う関係をつくれるようにしました。基本的には毎日、各学年の教室前の廊下に、高松市教育委員会作成の「ベーシックＴＡＫＡＭＡＴＳＵ」の問題をホワイトボードで出題し、基礎的な漢字の知識や計算力の習得をめざしました。定期テストや診断テスト前には、オリジナルの問題を作成してテスト勉強への意識高揚を図りました。



② 新聞を活用した一分間スピーチ

各教室に新聞を置いて、休み時間や放課後等に自由に閲覧できるようにし、それを一分間スピーチの資料にしました。一分間スピーチは、朝の会で当番制で行い、当番になった生徒は、朝の会で記事を要約して内容を紹介し、感想を述べます。それを聴いた生徒や先生方が質問や感想を述べます。この機会を創ることで、生徒が主体的に課題に向かう姿勢や、言語活動を中心とした表現力・思考力・判断力を育てるとともに、授業では取り扱われない真新しい分野にも視野を広げられるようにしました。これらの取組の結果、「分からないところは先生や友達に質問して解決していますか」の問いに、「している」「どちらかといえばしている」の合計が、目標値を上回り、プラス 15.8 ポイントと向上しました。

３　（児童質問紙）　私語なく先生や友達の話をしっかり聞くなど、集中して授業を受けていますか。

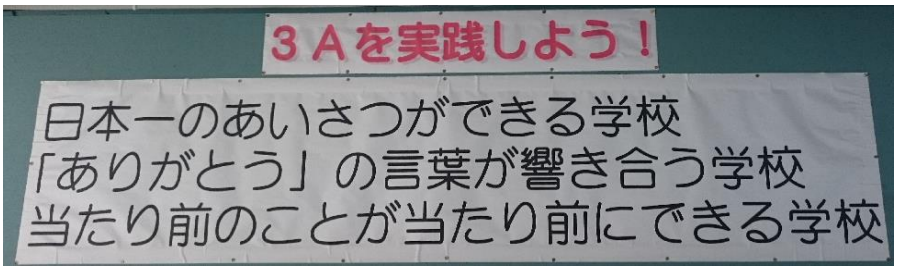
指標　「①している＋②どちらかといえばしている」の合計

５月調査	→	目標値	→	11 月調査
77.5%		85.0%		89.7%

指標の達成に向けた実践

(1) 学校行事等への取組を通しての主体性の育成

① 生徒会を中心にした３Ａへの取組



校内の主な行事は生徒会本部役員が中心となって企画・運営しており、 特に「日本一の挨拶ができる学校」「ありがとうの言葉が響き合う学校」「当たり前のことが当たり前にできる学校」の三つの学校をめざした行動を、あいさつ・ありがとう・当たり前の各アルファベットの頭文字を取って３Ａと呼び、生徒会が推進役となっています。写真　は、あいさつキャッチボールの様子です。月・水・金の朝、生徒会役員がキャッチボールをしつつ、あいさつ運動をしています。また、当たり前のことが当たり前にできるように、生徒会朝会では身だしなみのチェックを生徒同士で行っています。

② 実行委員による学校行事や総合的な学習の時間の運営

学校や学年の行事、総合的な学習を行う際には、各クラスで実行委員を募り、その実行委員が中心になって様々な活動を運営しています。これらの活動が、自己肯定感や主体性を育み、個人的にも､学級集団としても､よりよい学習習慣の形成へとつながると考えていています。写真は、１年生が初めて実行委員として活動した集団宿泊学習での出発式の様子です。先輩たちの取組の様子を参考に、次第に庵治中学校ならではの生徒主体の学校運営の伝統を引き継いでいます。

これらの取組の結果、「私語なく先生や友達の話をしっかり聞くなど、集中して授業を受けていますか」の問いに、「している」「どちらかといえばしている」の合計が、目標値を上回り、プラス 12.2 ポイントと向上ました。

４　（児童質問紙）　学級では安心して自分の意見を言うことができますか。

指標　　「①できる＋②どちらかといえばできる」の合計

５月調査	→	目標値	→	11 月調査
67.4%		85.0%		79.3%

指標の達成に向けた実践

(1)　ともに伸びようとするなかまづくりの推進

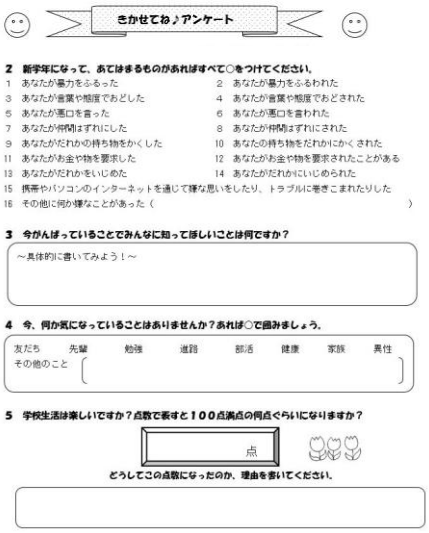
常々、「勇気あるチャレンジャーであるとともに、勇気づけるサポーターにもなってほしい」と呼びかけています。主体的に学び続けるためには、学習集団の支持的風土が欠かせないと考え、ともに学ぶ学級を中心に、なかまづくりに力を注いでいます。

①　個のよさを認める場の工夫

なかまづくりを推進するために、毎日の帰りの会で『今日のキラリさん』と題して、ともだちのいいところを発表し合う機会を設けました。学級に温かな雰囲気が醸成され、授業中のグループ発表では、発表後に自然と拍手が生まれる空気が創られています。右の写真は、国語の校内公開授業での一場面です。

②　定期的な全教職員での実態把握と支援

なかまづくりを推進するにあたり、定期的な生徒理解の機会を大切にしました。例えば、毎週火曜日の職員朝礼で、学年ごとに情報交換を行い、学年を越えて教職員全員で生徒理解に努めたり、養護教諭が毎学期作成する教育相談アンケート「きかせてね♪アンケート」を実施し、その集計データをもとに要観察の生徒の実態について共通理解を図りました。さらに、学級集団にも注目し、６月と２月にhyper-QU「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート」を実施し、特に学級の中で支援を必要としている生徒の把握に努め、全教職員で見守りかかわりをもつようにしました。



きかせてね♪アンケート

2　新学年になって、あてはまるものがあればすべて○をつけてください。

1　あなたが暴力をふるった　　2　あなたが暴力をふるわれた
3　あなたが言葉や態度でおどした　　4　あなたが言葉や態度でおどされた
5　あなたが悪口を言った　　6　あなたが悪口を言われた
7　あなたが仲間はずれにした　　8　あなたが仲間はずれにされた
9　あなたがだれかの持ち物をかくした　　10　あなたの持ち物をだれかにかくされた
11　あなたがお金や物を要求した　　12　あなたがお金や物を要求されたことがある
13　あなたがだれかをいじめた　　14　あなたがだれかにいじめられた
15　携帯やパソコンのインターネットを通じて嫌な思いをしたり、トラブルに巻きこまれたりした
16　その他に何か嫌なことがあった（　　）

3　今がんばっていることでみんなに知ってほしいことは何ですか？

～具体的に書いてみよう！～

4　今、何か気になっていることはありませんか？あれば○で囲みましょう。

友だち　先輩　勉強　進路　部活　健康　家族　異性
その他のこと（　　）

5　学校生活は楽しいですか？点数で表すと１００点満点の何点ぐらいになりますか？

点

どうしてこの点数になったのか、理由を書いてください。

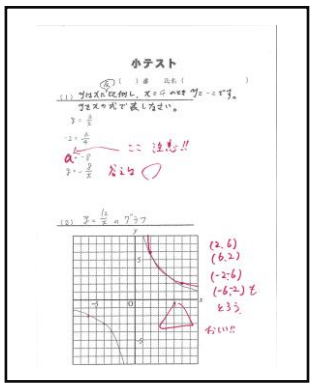
これら取組の結果、「学級では安心して自分の意見を言うことができますか」の問いに対して、「できる」「どちらかといえばしている」の合計が、目標値には達しなかったものの、プラス 11.9 ポイントと向上しました。

1　（児童質問紙）　授業の内容がどの程度分かりますか。

指標「①よく分かる＋②だいたい分かる」の合計

５月調査	→	目標値	→	11 月調査
65.2%		75.0%		69.0%

指標の達成に向けた実践



(1)　よく分かる楽しい授業を通しての確かな学力の育成

①　学習習慣徹底の工夫

授業の最初に、学習の成果を確認する小テスト（写真　参照）を継続して実施し、小テストに取り組む姿勢を習慣化することで、１時間の学びに向かう気持ちにスイッチを入るように、気持ちの切り替えができるようにした。

②　生徒が意欲をもって取り組める教材の工夫

「主体的に学び続ける学習習慣」の形成には、授業ごとに生徒の興味・関心を高める必要があると考え、教員各々が教材開発に取り組み、相互に授業公開を行った。

３年生の英語の授業では、道案内をする単元で、教科書ではアメリカの駅名で内容が展開されていましたが、それを身近なコトデンの駅名を使って教材開発することで、生徒たちは必要感を感じつつ、興味・関心をもって取り組めていた。

これらの取組の結果、「授業の内容がどの程度分かりますか」の問いに対して、「よく分かる」「だいたい分かる」の合計が、目標値には届かかなかったものの、プラス 3.8 ポイントと向上した。

Ⅳ　研究の成果と課題

○　５月と１１月に実施した生徒アンケートを比較すると、ほとんどの項目で肯定的回答のポイントが上昇していることから、生徒に主体的に学び続ける学習習慣が身に付いてきていると感じている。特に、「分からないところは先生や友達に質問して解決している」(+15.8ポイント)、「私語なく先生や友達の話をしっかり聞くなど、集中して授業を受けている」(+12.2ポイント)「学校では安心して自分の意見を言うことができる」(+11.9ポイント)「家で学校の宿題をしている」(+10.7ポイント）と１０ポイント以上上昇した項目が４項目あった。さらに、「授業の内容がどの程度分かりますか」の問いに対して、肯定的回答の割合が、目標値には届かなかったものの、３．８ポイント上昇していることから、授業内容の理解度は高まっているようで、取組の成果が学力にも反映しているものと喜んでいる。

●　地域との連携についてはコミュニティセンター長と話し合い１室をお借りして「放課後生徒クラブ（仮称)」を運営することを構想する段階に止まった。具体的な取組を進められなかったが、今後、学校運営協議会でも協議し、人的な支援も含めて実現をめざしたい。